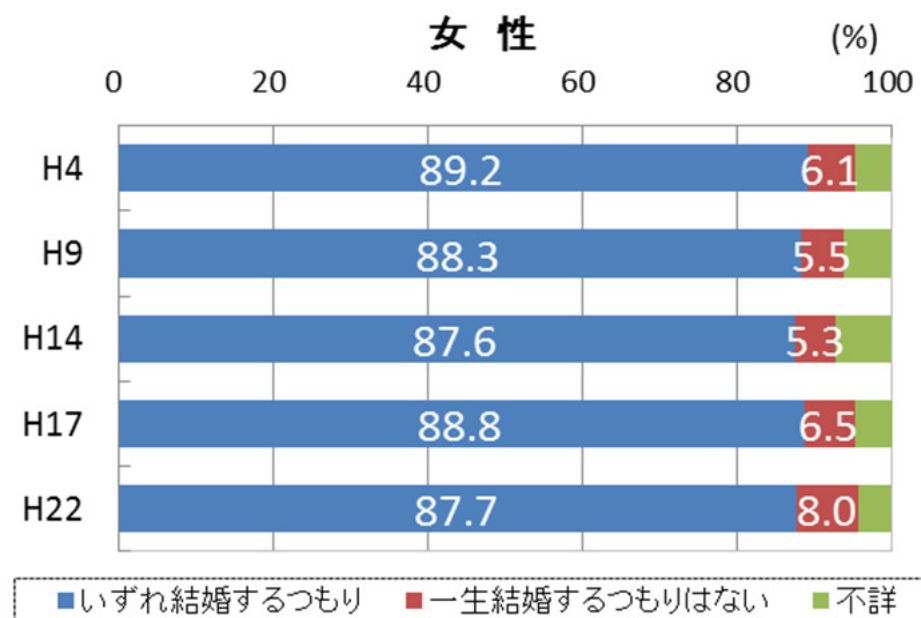
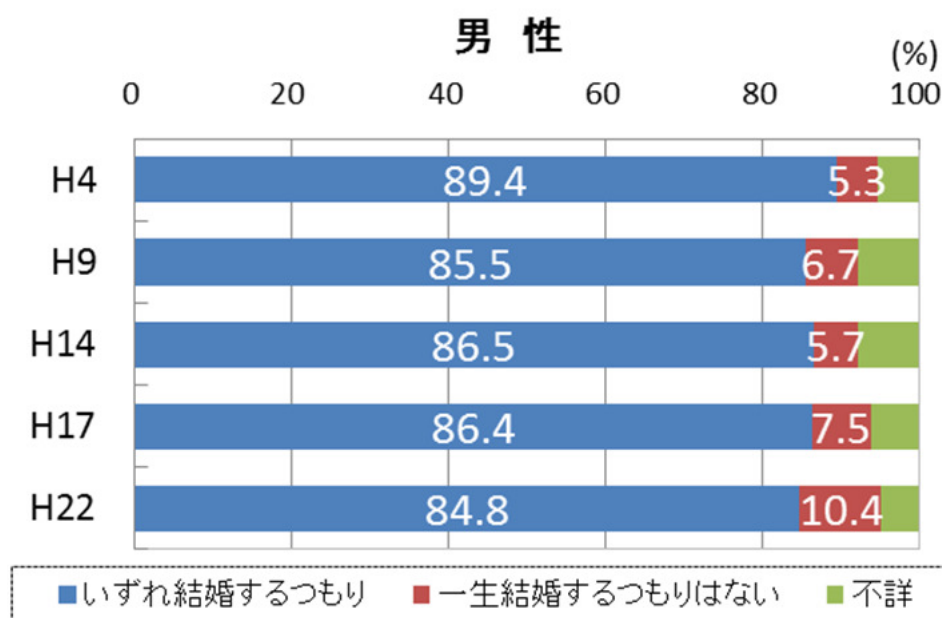


4. 奈良県の結婚・子育ての実態～奈良県子育て実態調査より～

1. 生涯の結婚意思(18～39歳未婚者)(全国)

○「いずれは結婚しようと考えている未婚者の割合」は、男女ともに、9割弱で推移しており、依然として高い水準。

○若者の結婚願望は、決して低いわけではない。

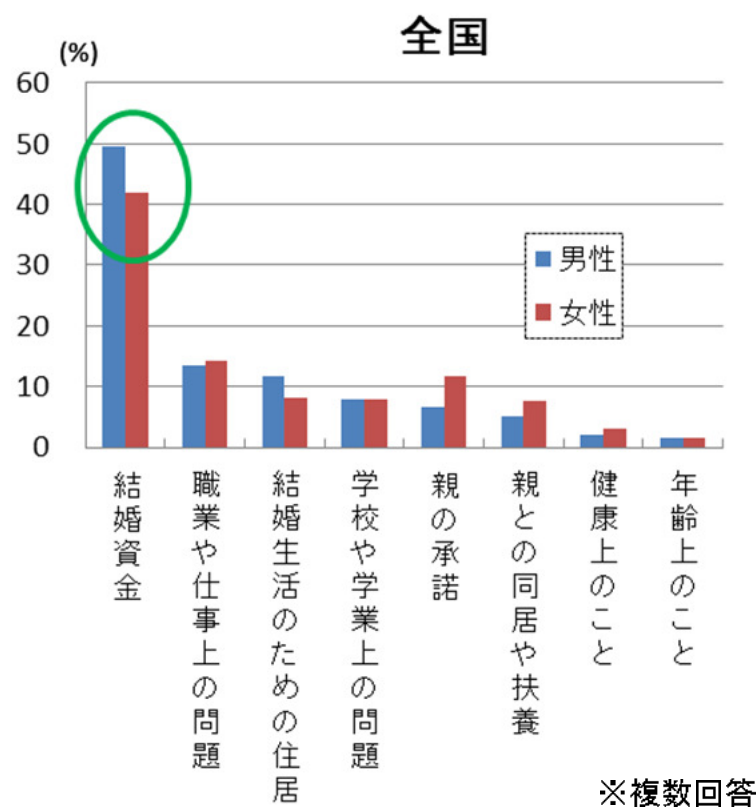


H22出生動向基本調査(国立社会保障・人口問題研究所)

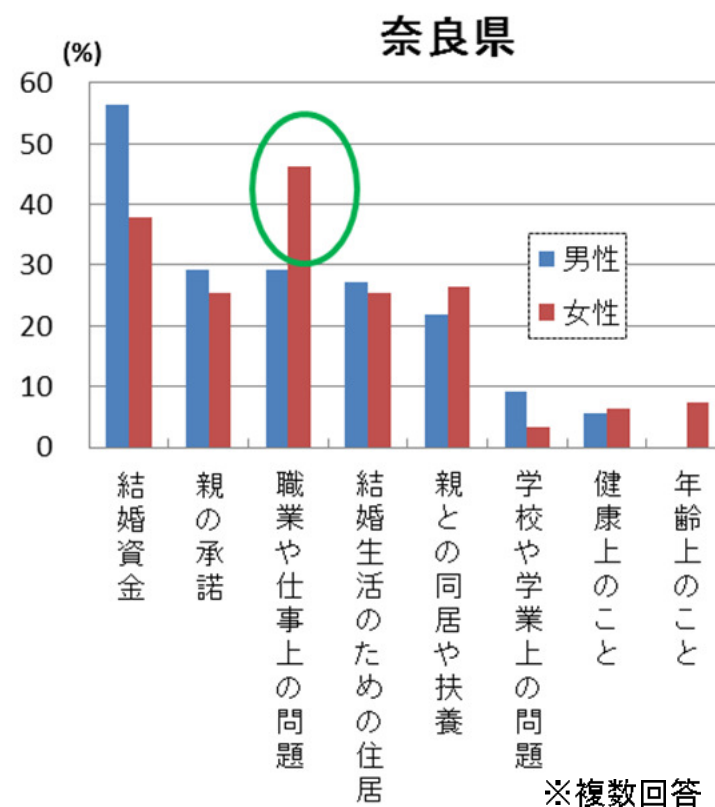
2. 結婚の障害の内容(20～39歳未婚者)(奈良県・全国)

○「1年以内に結婚することとなった場合、何か障害になることはあるか」との問いに対し、全国では男女とも**約7割が「障害がある」と回答**。

○障害の内容については、**全国では、男女とも「結婚資金(挙式や新生活の準備)のための費用」が他の項目と比べて突出して多いが、奈良県の女性は「職業や仕事上の問題」が最も多い**。



[全国]H22出生動向基本調査(国立社会保障・人口問題研究所)



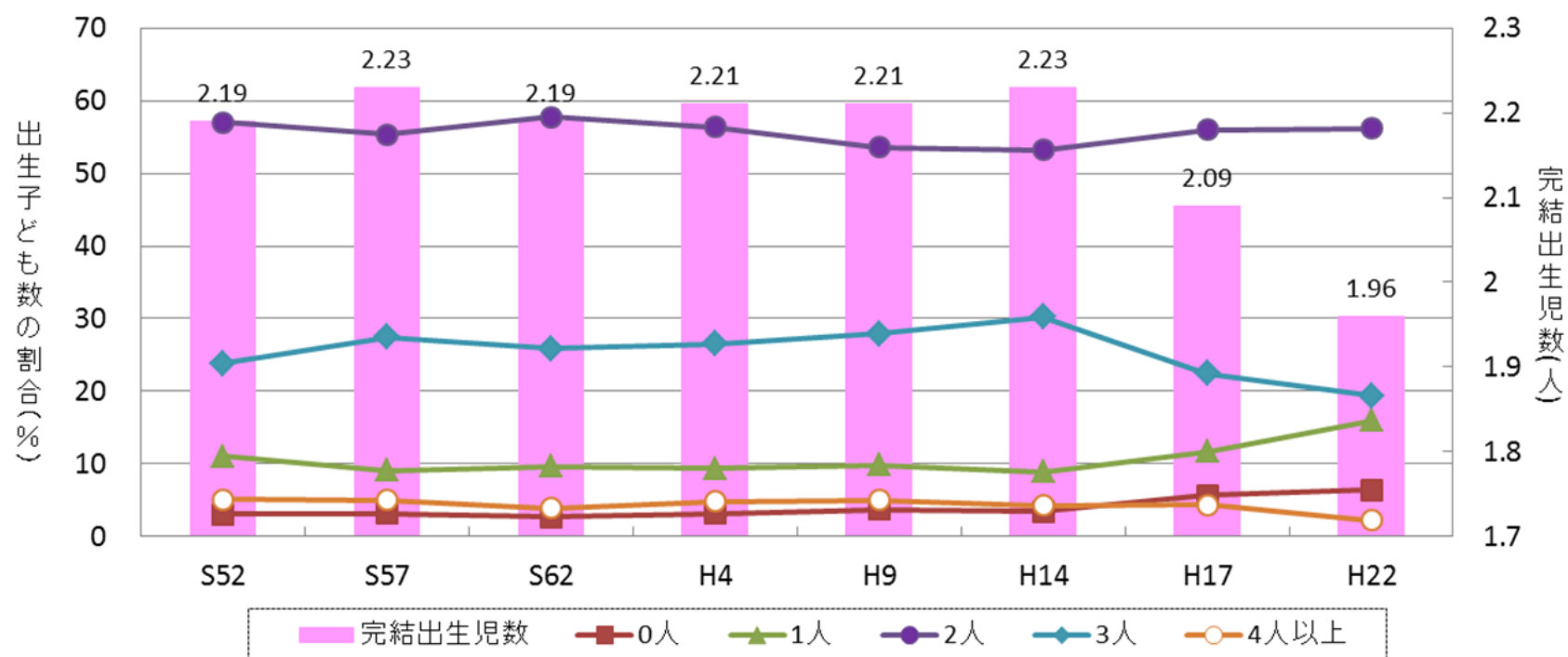
[奈良県]H25奈良県子育て実態調査(子育て支援課)

3. 夫婦の子ども数の推移(全国)

○結婚持続期間15～19年の夫婦の子ども数の平均は、平成17年までは「2人」を上回っていたが、平成22年には1.96人となり、「2人」を下回った。

○子ども数「3人以上」の割合は減少しているが、「1人」の割合が増加している。「2人」の割合は30年以上にわたってほとんど変わっていない。

出生子ども数の割合と完結出生児数(結婚持続期間15～19年)

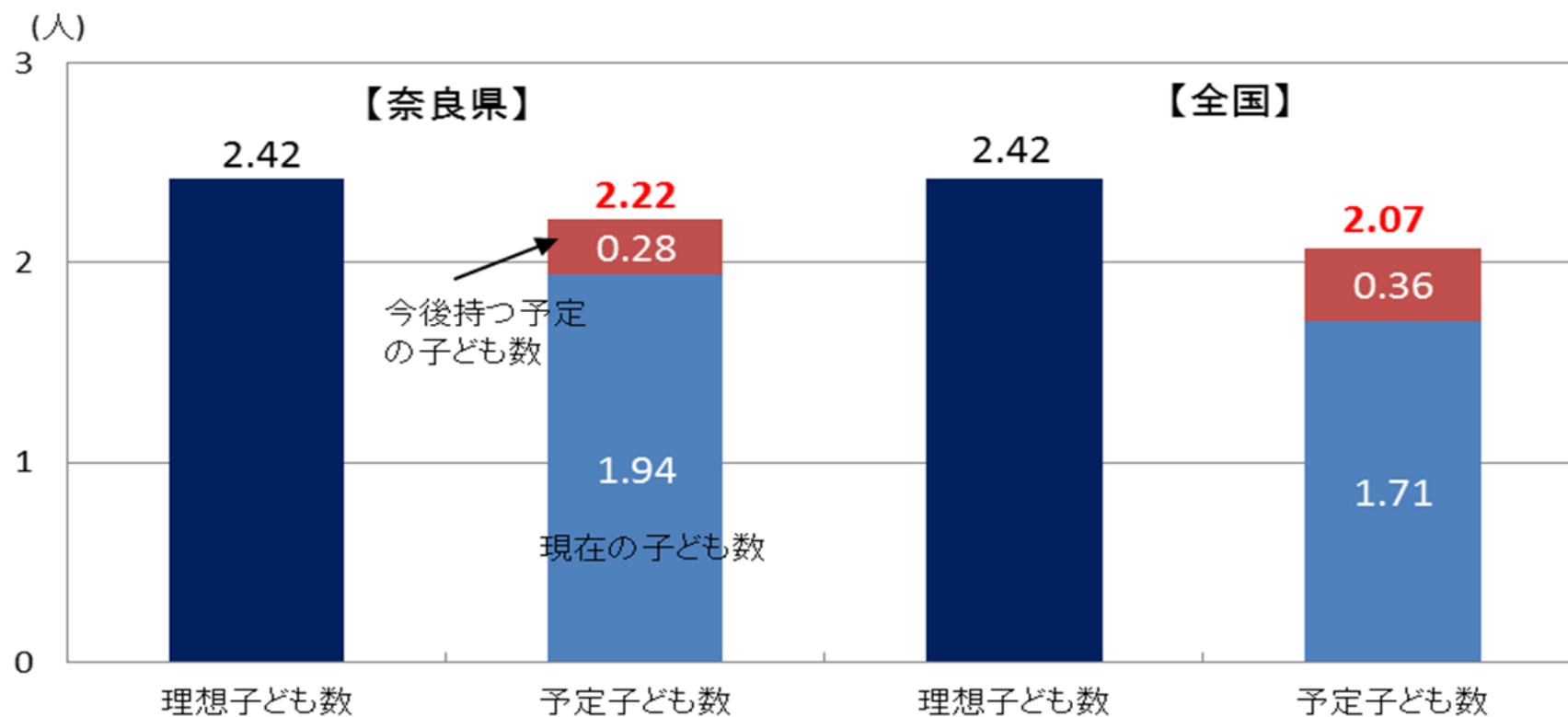


完結出生児数＝実際にもうけている子ども数

出生動向基本調査(国立社会保障・人口問題研究所)

4. 夫婦の子ども数の「理想」と「予定」の差(奈良県・全国)

○「理想子ども数」は、奈良県・全国ともに「2.42人」だが、「予定子ども数」は、奈良県が「2.22人」、全国が「2.07人」。**理想と予定には、差が生じている。「予定子ども数」は、奈良県の方が多い。**



※初婚どうしの夫婦

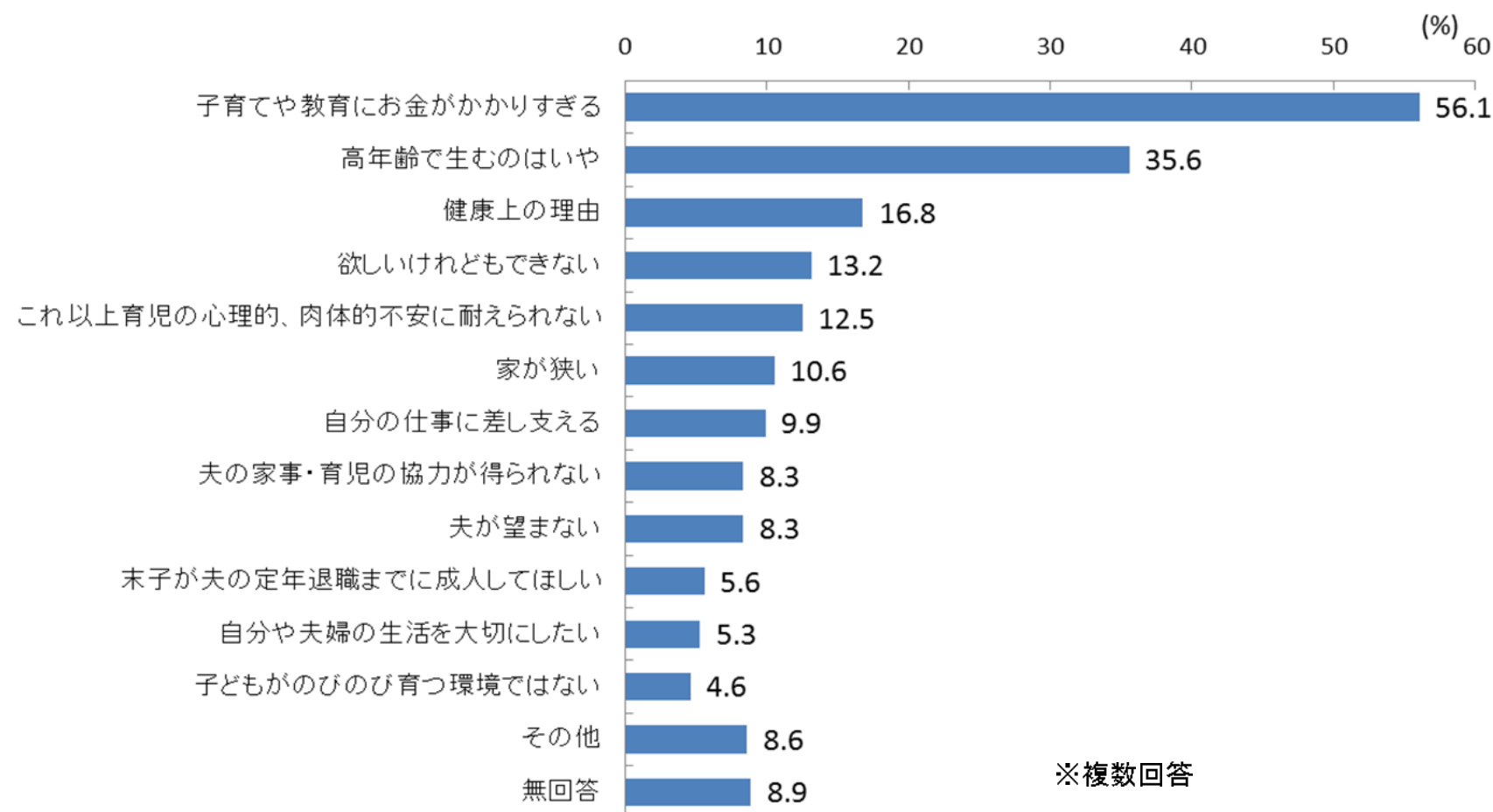
「予定子ども数」は、「現在の子ども数」と「今後持つ予定の子ども数」との和

[奈良県]H25奈良県子育て実態調査(子育て支援課)

[全国]H22出生動向基本調査(国立社会保障・人口問題研究所)

5. 「予定の子ども数」が「理想の子ども数」より少ない理由(奈良県)

○「予定子ども数」が「理想子ども数」よりも低い理由は、**1位が「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、2位が「高年齢で生むのはいやだから」。**

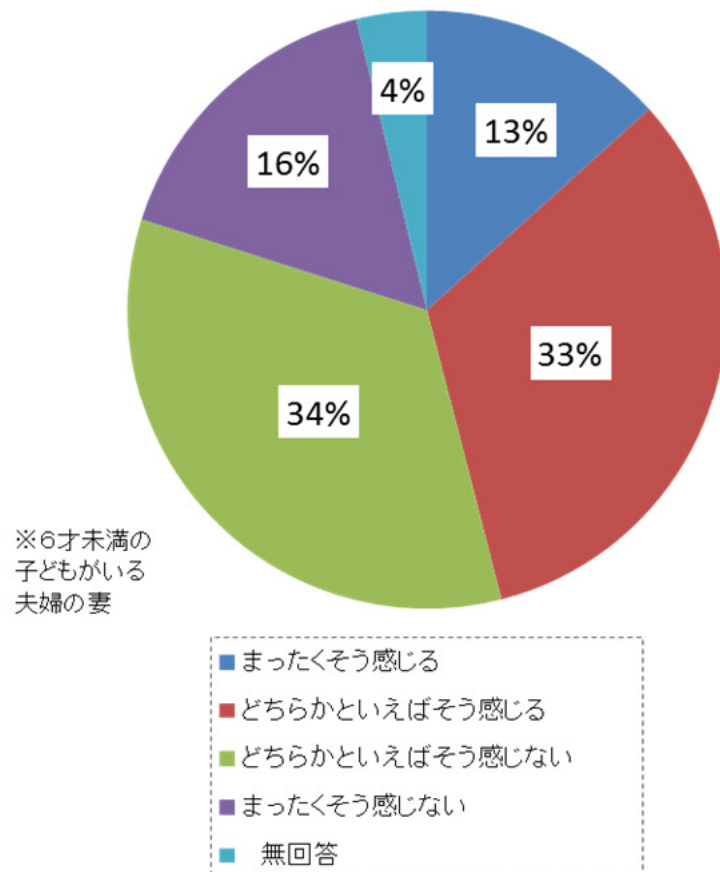


H25奈良県子育て実態調査(子育て支援課)

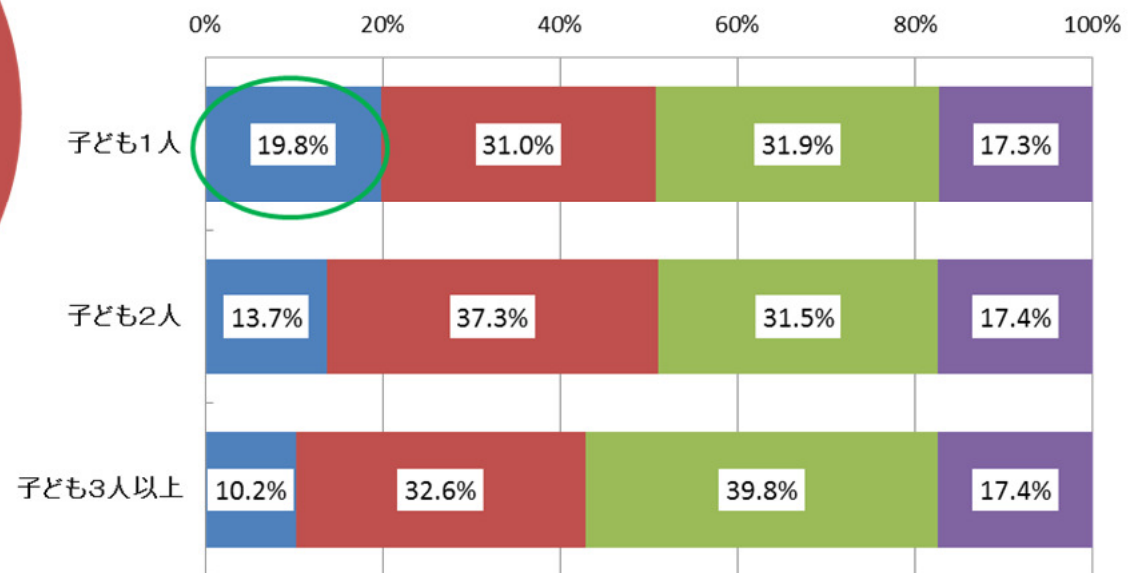
6. 子育ての「心理的・精神的」な不安・負担感

○子育てについて「心理的・精神的」な不安・負担感を感じている妻は約半分(46%)。
○子どもの数が少ないほど強く「心理的・精神的」な不安・負担感を感じている。

子育ての心理的・精神的な不安・負担感



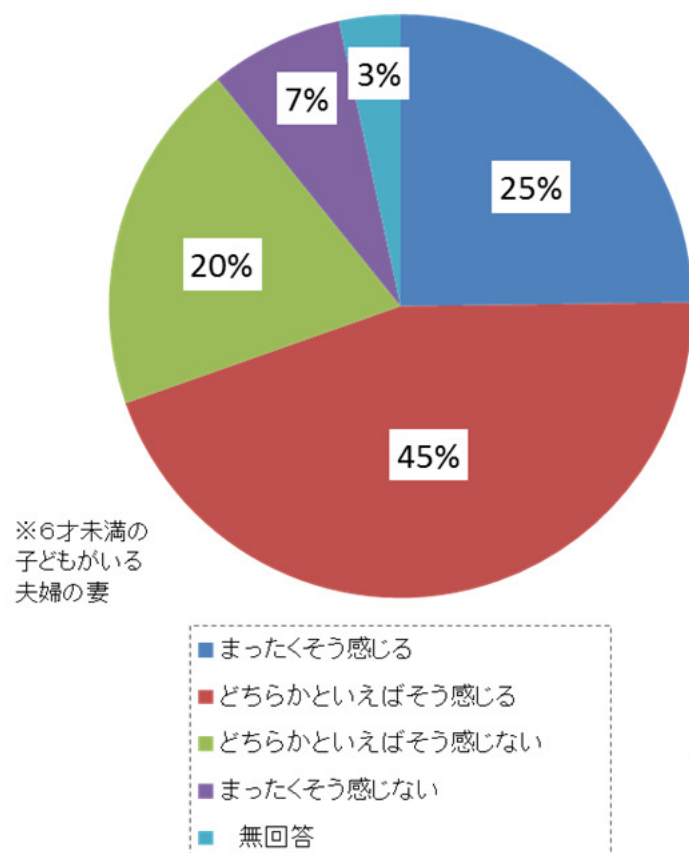
子どもの数別 子育ての心理的・精神的な不安・負担感



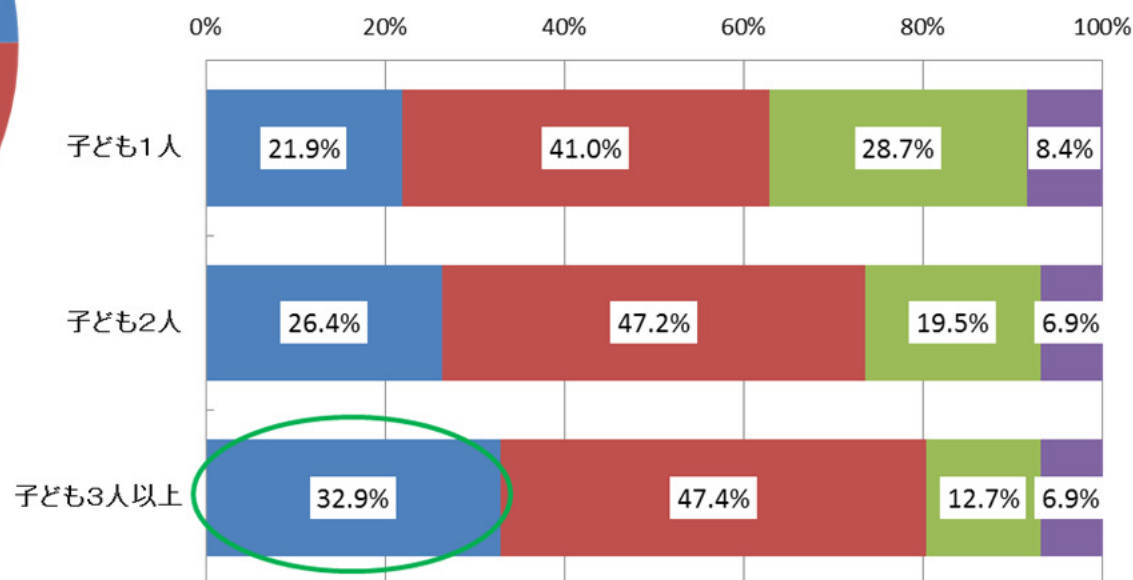
7. 子育ての「金銭的・経済的」な不安・負担感

○子育てについて「金銭的・経済的」な不安・負担感を感じている妻は約7割。
○子どもの数が多いほど強く「金銭的・経済的」な不安・負担感を感じている。

子育ての金銭的・経済的な不安・負担感

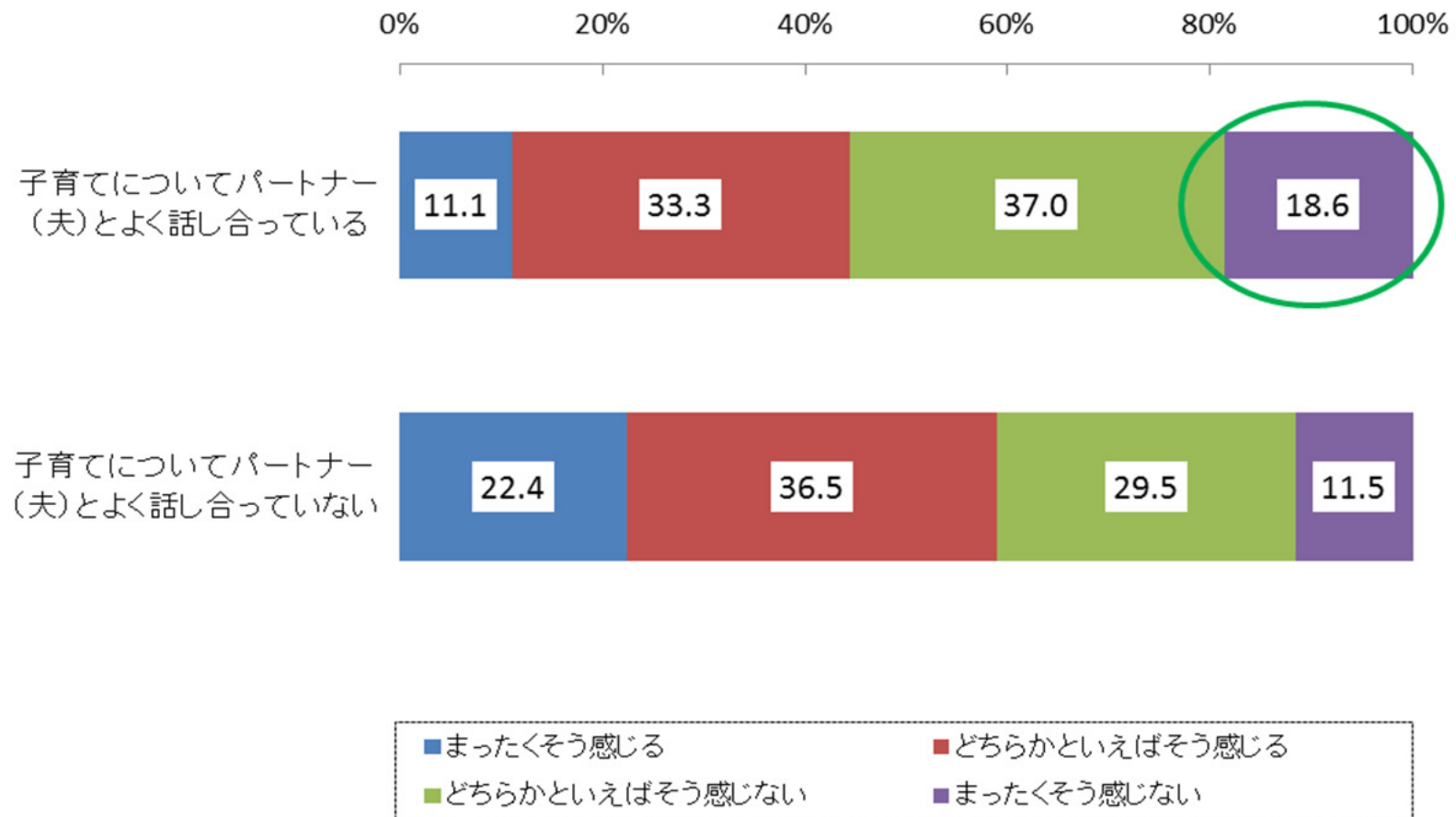


子どもの数別 子育ての金銭的・経済的な不安・負担感



8. 夫との話し合いと「心理的・精神的」な不安・負担感との関係

○子育てについてパートナー(夫)とよく話し合っている妻の方が「心理的・精神的」な不安・負担感は少ない。

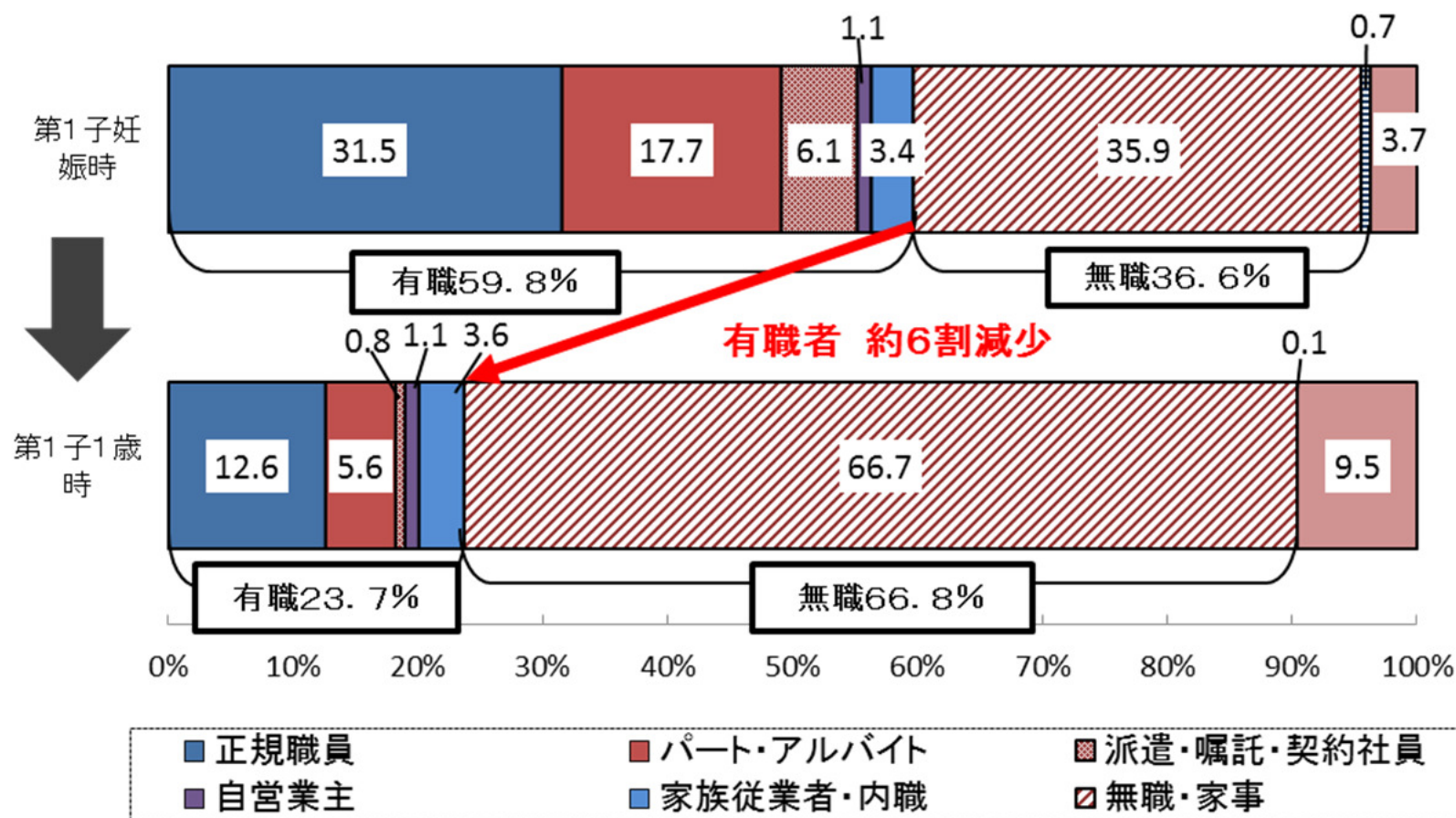


H25奈良県子育て実態調査(子育て支援課)

9. 第1子出産前後の妻の就労状況(奈良県)

○第1子の妊娠時に就労している妻の割合は約6割だが、第1子が1歳になった時には約2割に低下し、無職が約7割となっている。すなわち、働く女性の約6割が第1子を機に退職している。

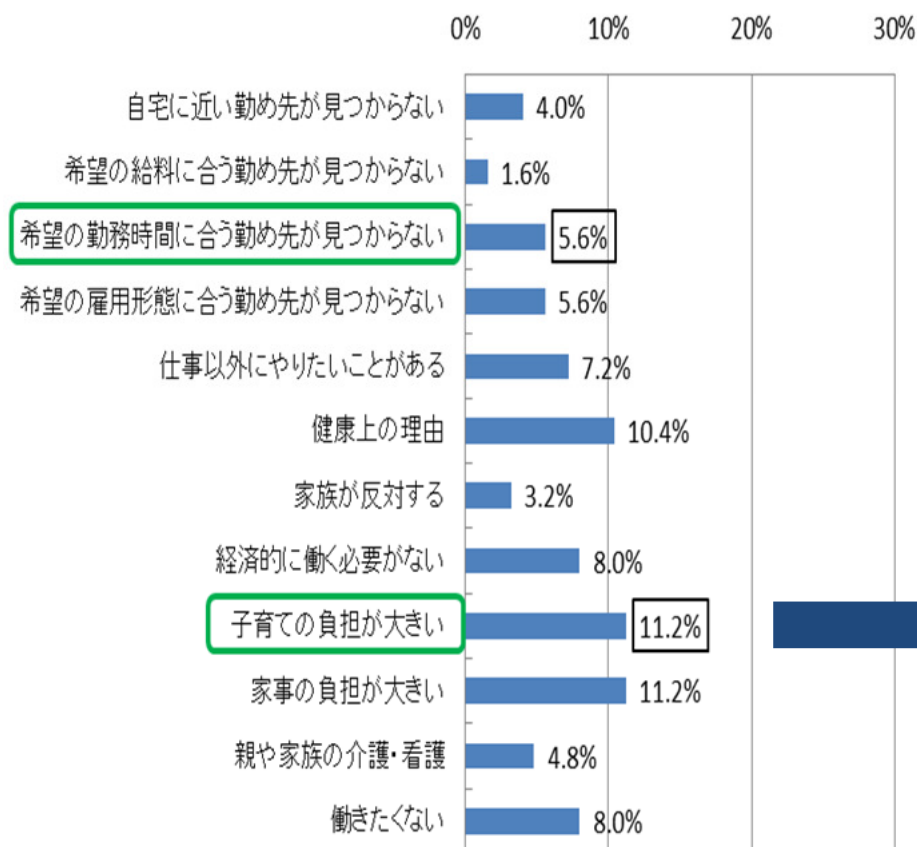
○奈良県の女性の就業率は、**全国最下位**。



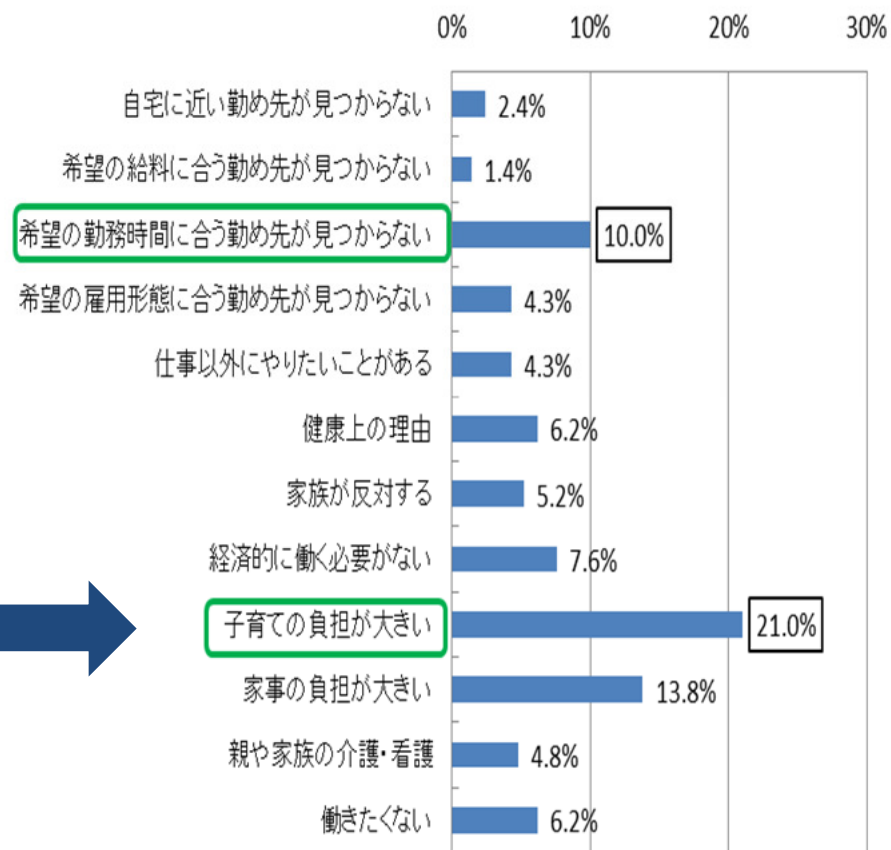
10. 仕事を持たない妻が就労を希望しない理由

○子どもの数が増えると、就労を希望しない理由として、「子育ての負担が大きいから」、「希望の勤務時間に合う勤め先が見つからないから」と考える割合が増加する。

就労しない理由(子どもが1人いる母)



就労しない理由(子どもが2人いる母)



※複数回答

H25 奈良県子育て実態調査(子育て支援課)

奈良県の現状

- 1 合計特殊出生率は、**全国ワースト4位(1.31)**と低位
- 2 20代後半の未婚率の全国順位は、**男性3位、女性1位**であり、未婚化が顕著
- 3 6歳未満の子どもがいる夫婦の妻の**約半数(46%)**が、子育ての「**心理的・精神的な不安・負担**」を感じており、「**金銭的・経済的な不安・負担**」を感じている割合は、**7割**
- 4 **働く妻の約6割**が**出産を契機に退職**しており、女性の就業率は**全国最下位**

5. 合計特殊出生率が高い地域(滋賀県)との比較分析

滋賀県と奈良県の人口規模はほぼ同じだが、滋賀県の合計特殊出生率は**全国15位、近畿1位**と高いため、滋賀県と奈良県を比較した。

〈基礎データ〉

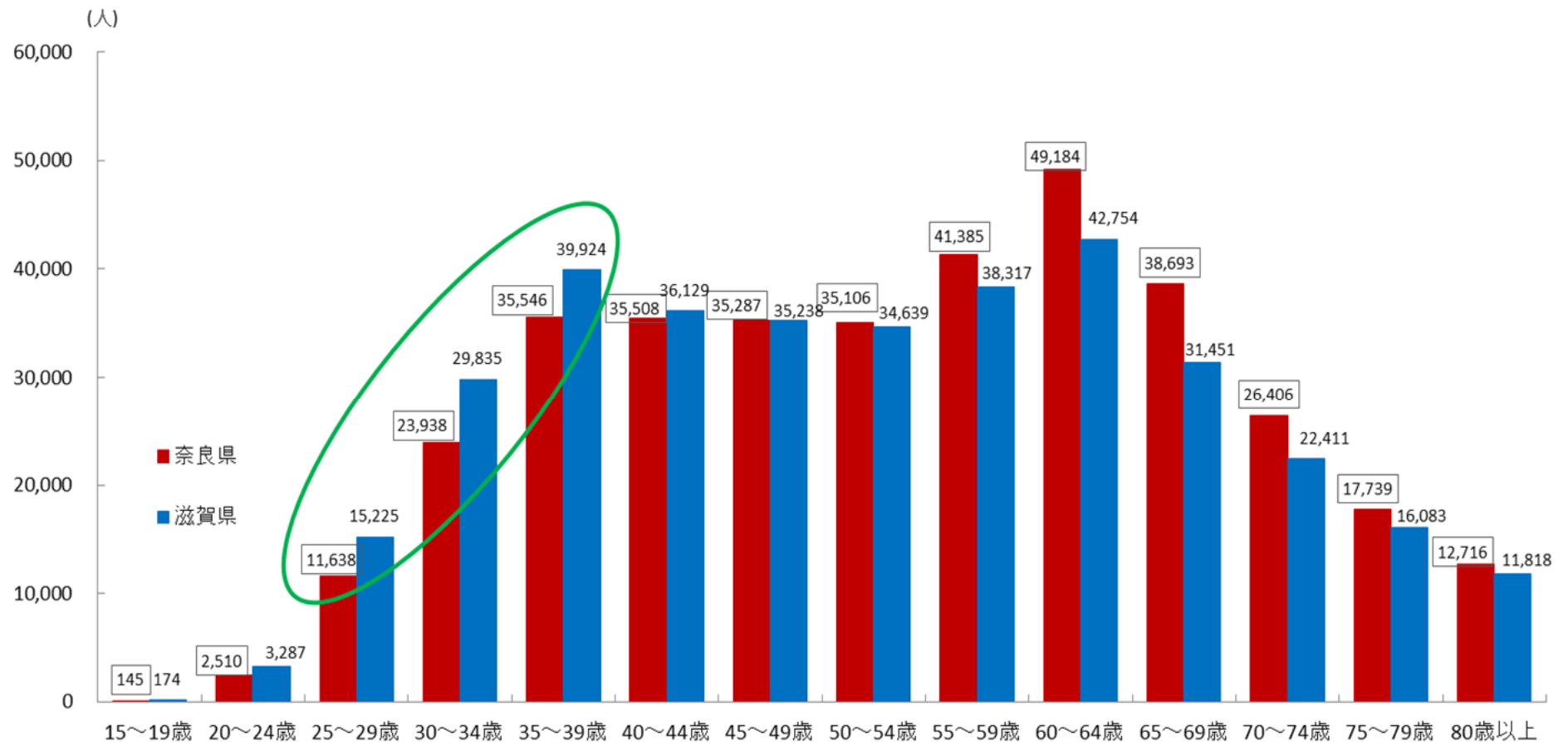
	人口 (H25.10.1)	合計特殊出生率(H25年) (順位・降順)	有配偶率(H22年)		有配偶出生率(H22年)	出生数 (H22年)
			25～39歳男性	25～39歳女性	25～39歳女性	
滋賀県	142万人	1.53(全国15位・近畿1位)	51.3%(全国 5位)	62.2%(全国 2位)	135.5(全国18位)	13,363人
奈良県	140万人	1.31(全国43位・近畿5位)	48.6%(全国24位)	54.9%(全国40位)	129.4(全国30位)	10,693人

※有配偶出生率・・・年齢別有配偶女性人口千人あたりの出生数

1. 年齢別有配偶女性数

○年齢別に有配偶女性数を見ると、若い世代、特に25歳から39歳では、奈良県より滋賀県の方が多いが、45歳以上になると奈良県の方が多くなっている。

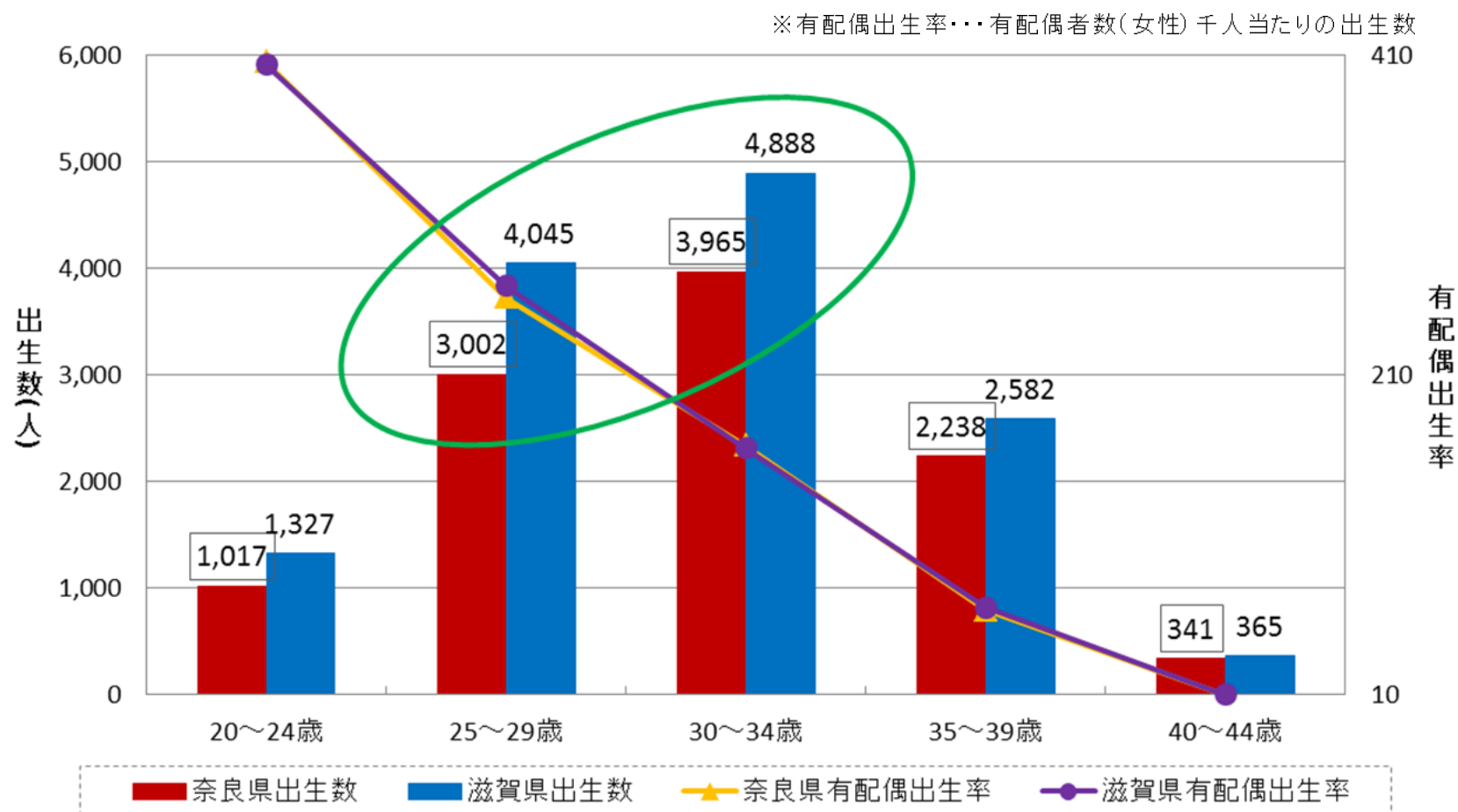
○若い世代が奈良県外へ転出し、その親世代が奈良県内にとどまっていると考えられる。



2. 母の年齢別出生数及び有配偶出生率

○母の年齢別に出生数を見ると、いずれの年齢も奈良県より滋賀県の方が多く、特に**25歳から34歳の出生数の差が大きい**。

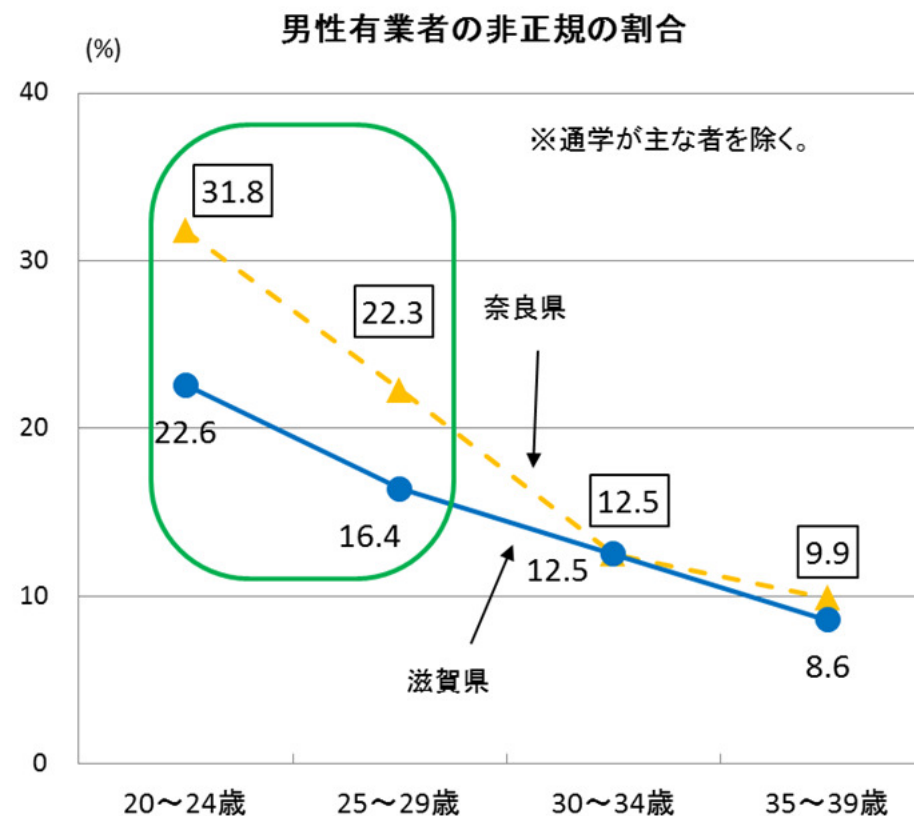
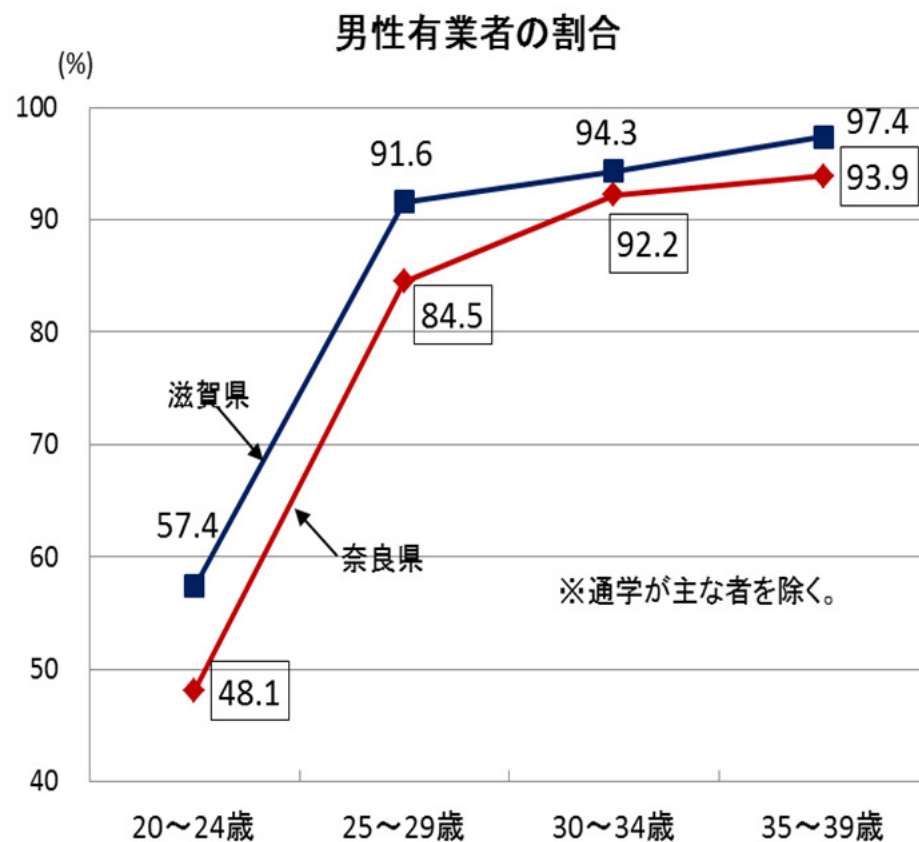
○滋賀県と奈良県の有配偶出生率は、ほとんど差がない。



H22年国勢調査(総務省統計局) H22人口動態統計(厚生労働省)

3. 男性有業者及び非正規の割合

- 若い世代の男性有業者の割合は、滋賀県の方が高い。
- 若い世代の男性有業者のうち、非正規職員の割合は、奈良県の方が高い。
- 滋賀県の若い世代の雇用が安定**していると考えられる。

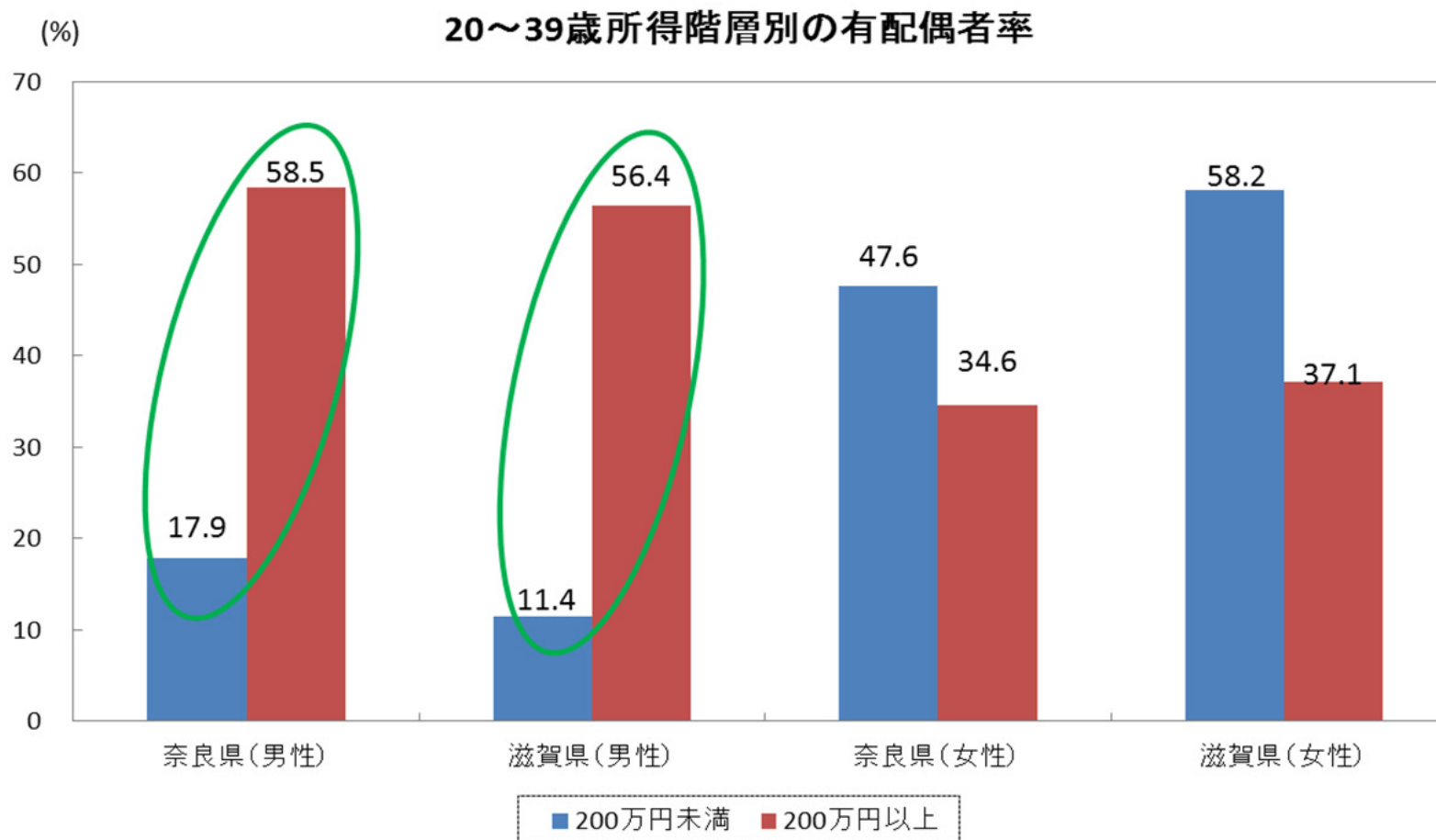


H24就業構造基本調査(総務省統計局)

※有業者は、自営業者、家族従事者、役員を除く。

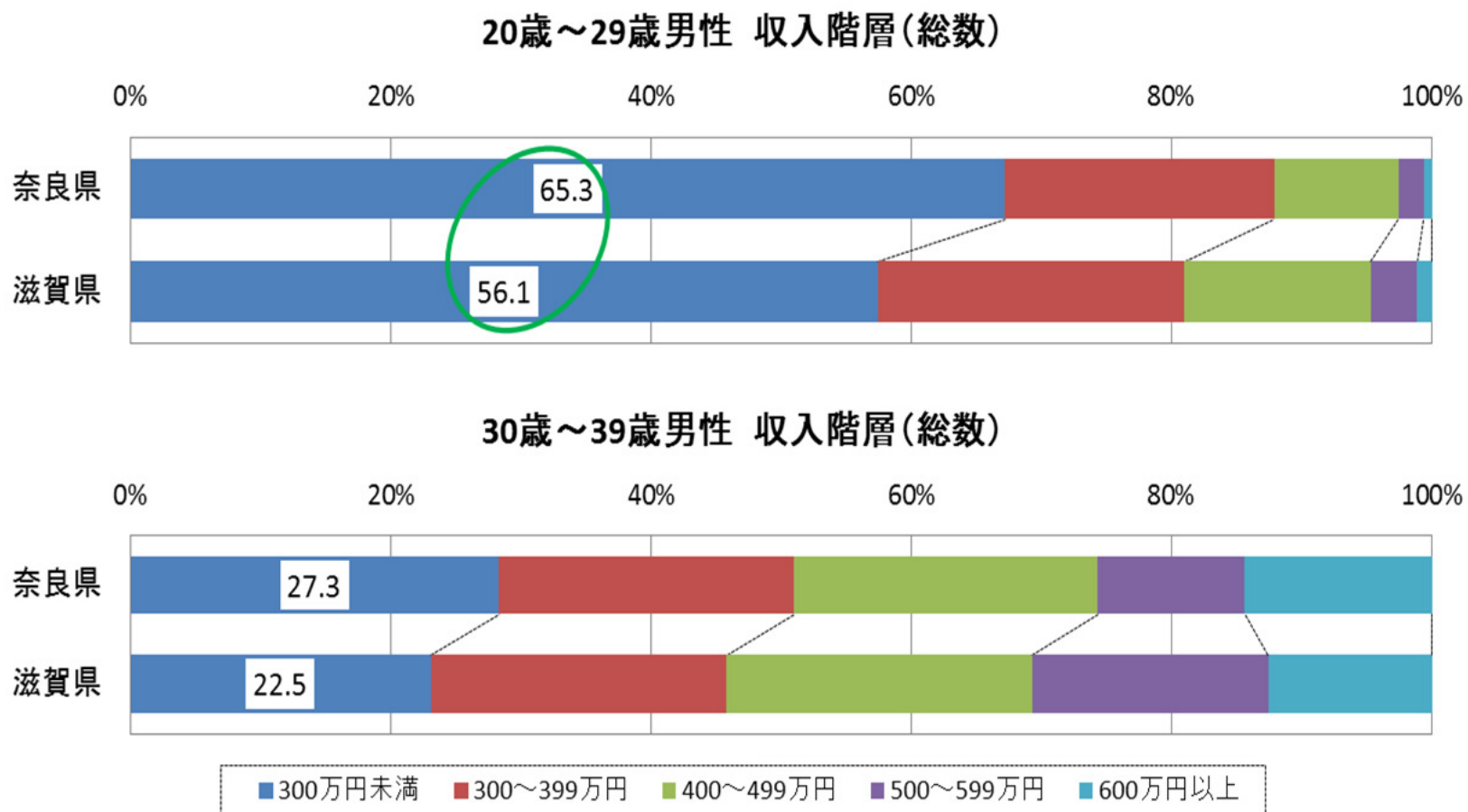
4. 20歳～39歳所得階層別有配偶者の割合

- 男性の場合**、奈良県、滋賀県とも**所得が200万円以上になると、有配偶者の割合が高くなる。結婚するには安定した収入を得ることが必要と考えられる。**
- 女性の場合**、男性と異なる傾向で、**所得が結婚することの影響がないと考えられる。**



5. 20歳代、30歳代男性の収入階層

○滋賀県より奈良県の方が300万円未満の割合が高い。特に20歳代で差が大きい。



H24就業構造基本調査(総務省統計局)

滋賀県と奈良県の比較 まとめ

奈良県と比較して**滋賀県**では

- 1 25～39歳の有配偶女性の数が多い。
- 2 有配偶女性の出生率は、ほとんど差がない。
- 3 男性の有業者率が高く、非正規職員率が低い。
- 4 20～29歳の男性の収入が300万円以下の割合が低い。

6. (仮称)奈良こどもすくすく・子育ていきいきプラン

基本理念

「子どもを生み育てやすく、子どもが健やかに育つ奈良県」
を目指します

基本的な考え方

●次代を担うすべての子どもたちの健やかな育ちを守り、結婚・子育ての希望の実現を阻害している要因を取り除き、安心して子育てができるよう次の施策を推進。

- ① **子どもの最善の利益の尊重**
- ② **すべての子育て家庭への支援**
- ③ **結婚・子育てのための経済的生活基盤の安定**
- ④ **地域の実情に応じた取組の推進**

●結婚期に至るまでから、結婚期、妊娠期、子育て期にわたるライフステージを通じ、切れ目なく施策を推進。

(仮称)奈良こどもすくすく・子育ていきいきプラン 基本目標

I 結婚・子育てをみんなで支える社会づくり

II 結婚の希望の現実と次代の親の育成

III 子どもの健やかな育ちの実現



基本目標Ⅰ 結婚・子育てをみんなで支える社会づくり

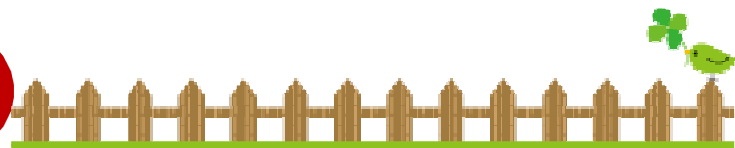
推進施策

1 社会全体での結婚から子育てまでの切れ目のない支援

2 ワーク・ライフ・バランスの推進



主な具体的取組案



結婚応援活動の促進

NPOや企業、市町村等多様な主体間の協働による結婚応援活動を支援

子育て応援活動の促進

NPOや企業、市町村等多様な主体間の協働による子育て応援活動を支援

子育て応援の気運醸成

企業における子育て家庭へのサービス提供を拡充する等により、妊婦や子育て家庭を応援する気運を醸成

働き方の見直し・多様な働き方の推進

中小企業におけるワーク・ライフ・バランスの意義と制度の理解を促進し、それぞれの主体的な取組を個別・具体的に支援

基本目標Ⅱ 結婚の希望の実現と次代の親の育成

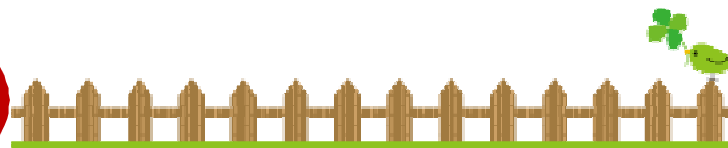
推進施策

3 若者と女性のしごとの安定

4 次代の親の育成



主な具体的取組案



非正規雇用から正規雇用への転換の促進

事業所に対し、非正規雇用から正規雇用への転換を促進するための取組を実施

女性就労者等の離職の防止

在職者に対する処遇改善に向けた取組を実施

若者のライフデザイン形成支援

若者が結婚や子育てについて具体的なイメージを抱き、ライフデザインを描くことができる機会をより多く提供

プレ親世代の健全な母性・父性の育成

若者が自分の身体・性に関する医学的根拠に基づく適切な情報をもとに、自分の健康管理、妊娠適齢期等の知識をふまえて、主体的に意思決定ができるよう支援

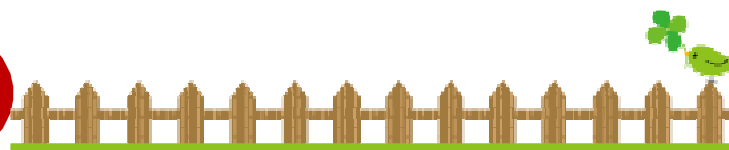
基本目標Ⅲ 子どもの健やかな育ちの実現

推進施策



- 5 子どもと親の健康の確保
- 6 幼児期の学校教育・保育及び地域の子育て支援の推進
- 7 子育てに関する多様な支援
- 8 保護や支援を必要とする子どもや家庭への対応
- 9 人間性豊かで心身ともにたくましい子どもを育てる教育環境の整備
- 10 子どもを守り、安心して子育てできる生活環境の整備

主な具体的取組案



発達段階に応じた適切な学び・運動・しつけの実施

就学前教育の実施など、子どもの発達段階に応じた適切な学び・運動・しつけの実施

保育の量的拡大と保育サービスの充実

民間保育所の創設・増改築事業及び病児・病後児保育や障害児保育等保育サービスを充実する市町村を支援

保育士確保対策の拡充

保育士確保対策を総合的に推進

放課後児童対策の拡充

放課後児童クラブと放課後子供教室の一体型を中心に、放課後児童クラブの設置・運営を支援

子育て家庭に対する経済的支援の拡充

子育て家庭に対する経済的支援に取り組む市町村を支援

地域における子育て支援事業の拡充

子ども・子育て支援新制度における市町村の子育て支援事業が確実に実施できるよう支援

少子化対策をすすめるため、「結婚や子育てに関する希望を叶える」ことを基本的な考え方として、思春期から、結婚期、妊娠期、子育て期を通しての切れ目ない施策を実施

子どもを生み育てやすく、
子どもが健やかに育つ奈良県を目指します

ご清聴ありがとうございました。

